

ユニバーサルミュージアムの基本的要件とその評価 と活用方法に関する研究

平井, 康之

<https://doi.org/10.15017/1654989>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（芸術工学）, 論文博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏 名 : 平井 康之

論文名 :
ユニバーサルミュージアムの基本的要件とその評価と活用方法に関する研究

区 分 : 乙

論文内容の要旨

日本では「障害者基本計画」の流れを受け、障害者差別解消法が2016年に施行される。これにより、国立・公立の博物館を含む、国の行政機関・地方公共団体等の公共施設では、障がいのある人々への「合理的配慮」が法的義務となり、民間事業の場合は努力義務となる。このような障がい者の社会参加、また2013年に1000万人台を超えた海外から日本を訪れる観光客の増加、さらに少子高齢化により想定される多様な市民を包摂する「合理的配慮」を持った博物館、つまりユニバーサルミュージアムの具現化が求められている。

他方、博物館では、厳しい社会経済環境を反映して、目標と成果にもとづく博物館のセルフマネジメントが求められており、客観的な評価項目が必要不可欠である。しかし現状ではユニバーサルミュージアムを評価する項目は明確ではない。

本研究では、ユニバーサルミュージアム評価項目を明らかにするために、ユニバーサルデザイン、ユニバーサルミュージアムに関する文献から、ユニバーサルミュージアムに関する要件を整理・比較し、その課題と評価項目を抽出する。抽出された評価項目から、今後のユニバーサルミュージアム評価に必要な項目を構築し、検証することを目的とする。

そのために目的を：

- 1) ユニバーサルミュージアムの基本的要件
- 2) ユニバーサルミュージアム評価手法とその検証

の2つに分けて設定した。

研究方法としては、外部評価、自己評価、第三者評価の3つの異なる評価の比較を行い、ユニバーサルミュージアムに必要な評価項目を抽出した。外部評価は各種評価項目の文献調査、自己評価は先進事例の当事者の博物館スタッフへのアンケート調査、第三者評価はワークショップ形式によるユーザー調査を行った。評価項目と対象ユーザー分類を比較した。

第1の目的であるユニバーサルミュージアムの基本的要件については、ユニバーサルデザインの成立条件が、すべての障がい者を網羅しなくても、健常者と少なくとも一つの障がい者カテゴリーを含めればユニバーサルデザインとして評価される現状を示した。また環境系（バリアフリー）と情報系（情報保障）の2つのアプローチの必要性、およびユニバーサルデザインとユニバーサルミュージアムの類似点と相違点も確認した。ユニバーサルデザインは、7原則をもとにした「使いやすさ（ユーザビリティ）」に中心を置くデザイン方法で、博物館の「アクセスのしやすさ」の解決に向いている。それに対しユニバーサルミュージアムは、「多様な鑑賞体験」に重点がある。具体的には、ユニバーサルミュージアム特有の項目として「五感を活かした知覚鑑賞をサポートしているか」などが評価視点として示された。

ユニバーサルミュージアム評価手法とその検証については、障害者差別解消法など、国レベルか

ら文部科学省、博物館協会へつながる外部評価による、多様な市民への合理的配慮の必要性を示した。また自己点検システムでは多様な来館者のための合理的配慮の視点がなく、全体に不十分な項目しか用意されていない現状が示された。

また自己評価を知るため、先進事例4博物館の実施内容を比較調査した結果、展示については、「展示空間でハンズオンなど鑑賞をサポートするハード」は4館とも行われているが、「人やソフト」の対応はばらつきがみられた。学習・普及については、「UMやUDの教育・普及を行っている」については4館とも行われているが、「UMやUDの職員研修」は実施されていなかった。博物館自身による自己評価項目が明確ではないことも一因と考えられる。博物館全体としてのユニバーサルミュージアム実現には、館独自のニーズ分析とポリシーが要求される。展示担当のスタッフに任せるだけでなく、博物館をあげて来館者、ひいては地域社会とのより良い関係性を作り出す必要があることが示唆された。

第三者評価のユーザー評価については、気づきによる解決策が、チェックリストに比べ、ユーザーごとの気づきや課題の優先順位が揃っていることで、博物館と多様なユーザー双方の理解を促し、具体的な解決策を導きやすい可能性が示唆された。

これらのことから、総合的なユニバーサルミュージアム評価の必要性を明らかにした。

さらに今後のユニバーサルミュージアム評価のための評価項目を構築し、検証した。

そのために、これまで調査してきた3つの評価を総合的に分析し、ユニバーサルミュージアム項目とユニバーサルデザイン項目を総合した評価項目を抽出した。それら項目について多様なユーザーによる評価調査を行った結果、ユーザータイプごとに優先順位を確認でき、ユニバーサルミュージアム評価項目の有効性が確認された。